

# 令和8年度 第1回 立川市多文化共生推進委員会会議録（要旨）

■開催日時 令和8年7月13日（月） 午後7時～午後8時30分

■開催場所 立川市役所 2階 209会議室

■出席者 <委員>大槻委員、松屋委員、沈委員、釣部委員、柏崎委員、長井委員、  
小林委員、槇野委員、北岸委員、名取委員、上田委員  
<事務局>中村市民部長、黒島市民協働課長、早野多文化共生係長

■欠席者 なし

■傍聴者 なし

## ■次第

1. 開 会
2. 委員委嘱辞令の交付
3. 市民部長挨拶
4. 委員の紹介
5. 議題
  - (1) 正副委員長の選任
  - (2) 会議の公開について
    - ①会議の傍聴について
    - ②会議録の作成について
    - ③委員名簿の公開について
  - (3) 立川市の外国人の状況について
  - (4) 立川市第5次多文化共生推進プランについて
  - (5) 立川市第5次多文化共生推進プランの取組状況について
  - (6) 多文化共生とくらしに関するアンケート調査について
6. その他
  - ・今後の日程について

## ■配布資料

1. 立川市多文化共生推進委員会設置要綱
2. 立川市多文化共生推進委員会委員名簿
3. 立川市の外国人の状況について
4. 立川市第5次多文化共生推進プラン
5. 立川市第5次多文化共生推進プランについて
6. 立川市第5次多文化共生推進プラン 各事業の取組状況
7. 第5次多文化共生推進プランの取組
8. 第5次多文化共生推進プランの実績
9. 多文化共生とくらしに関するアンケート調査について

## ■会議内容（要旨）

### 1. 開会

### 2. 委員委嘱辞令の交付

市民部長より、委嘱状伝達

### 3. 市民部長挨拶

増加する外国人に対して不安や不公平感を感じる市民も一定数いるが、市内の製造業や、介護サービス等では多くの外国人の方に担っていただいている状況もある。

持続可能な地域社会を目指し、多文化共生の考え方をこれまで以上に地域住民に浸透させていく必要があると考えている。引き続き皆様のご協力をいただきながら、多文化共生の推進につなげていけるよう、皆様の活発な意見交換をお願いしたい。

### 4. 委員の紹介

各委員より、自己紹介、所属団体の紹介

### 5. 議題

#### （1）正副委員長を選任

推薦により、委員長に大槻委員、副委員長に小林委員を選任

#### （2）会議の公開について

会議の傍聴、会議録の作成、会議の公開について説明

#### （3）立川市の外国人の状況について

##### ○資料3：立川市の外国人の状況について

- ・立川市の外国人の人口は増加し続けており、人口に対する割合も増加している。国籍別では、ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマーの方の割合が増加しており、韓国・朝鮮の方の割合が減少している。
- ・東京都全体では、ネパールがベトナムを抜いて3番目、ミャンマーがフィリピンを抜いて5番目に多い国となっている。
- ・立川市には85の国と地域の方が住んでおり、使用言語も多様化している。
- ・在留資格は、身分・地位に基づく在留資格の割合は減少しており、就労が認められる在留資格の方の割合が増加している。

#### （4）立川市第5次多文化共生推進プランについて

##### ○資料4：立川市第5次多文化共生推進プラン

##### ○資料5：立川市第5次多文化共生推進プランについて

- ・プランの概要について説明

#### （5）立川市第5次多文化共生推進プランの取組状況について

##### ○資料6：立川市第5次多文化共生推進プラン 各事業の取組状況

○資料 7：第 5 次多文化共生推進プランの取組

○資料 8：第 5 次多文化共生推進プランの実績

- ・施策 1 の具体的な取組 3：多言語での情報提供では、毎年、ごみのカレンダーや子どもの健診の書類などを翻訳している。令和 7 年度から、言語別の外国人人口を元に、翻訳の言語を見直し、ポルトガル語、スペイン語、タイ語の代わりに、ネパール語、インドネシア語、ミャンマー語を追加した。
- ・令和 7 年度は、「外国人のための日本語教室」は延べ 2,753 人、子ども日本語教室は延べ 760 人が参加。令和 8 年度から子ども日本語教室は上砂会館で 2 か所目を開講。
- ・施策 1 の具体的な取組 1：生活に関する情報の提供として、今年度、「広報たちかわ」等から情報を抽出し、やさしい日本語で作成した Foreigners' news を発行。
- ・施策 3 の災害への備えでは、令和 7 年度は、外国人を雇用する企業と連携し総合防災訓練へ外国人が参加した。たちかわ多文化共生センターと災害時の支援体制について検討を続けていく。
- ・今年度は、姉妹市アメリカ・サンバーナディノ市と高校生のオンライン国際交流を実施する。

●（5）立川市第 5 次多文化共生推進プランの取組状況についてのご意見等

- ・すでに目標値に達している指標があるが、目標値を変えることはあるのか。
- 中間年で状況に応じて検証しながら、次期プランの策定に向けての検討材料にしたい。
- ・目標値の数値だけを見るのではなく、内容を分析し、課題を見つける必要があるのではないか。
  - ・避難訓練等の質を上げるために、試行錯誤しながら積み上げていくことが重要である。
  - ・特定技能以外の在留資格の方を雇う企業にもアプローチすることが必要ではないか。
  - ・日本人の外国人に対する理解を深めるための取組が重要である。

（6）多文化共生とくらしに関するアンケート調査について

○資料 9：多文化共生とくらしに関するアンケート調査について

- ・第 5 次多文化共生推進プランの初動段階での課題や外国人市民のニーズを明らかにするために、2 月下旬から 3 月にかけてアンケート調査を実施。
- ・外国人 1500 人、日本人 3000 人を無作為抽出。
- ・外国人のアンケートは日本語の、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語に翻訳して実施。
- ・市民が地域社会とどういう接点を持っているのかを聞き、その上で多文化共生、防災活動、地域参加などがどのように可能なのかということを検討していくという試みのアンケート調査となっている。
- ・調査の結果については、集計、分析ができ次第ご報告する。

●（6）多文化共生とくらしに関するアンケート調査についてのご意見等

- ・2 次元コードから回答だとある程度の IT リテラシーが必要で、若年層に偏るバイアスがかかり、本当の市の状況の把握にはならないのではないか。
- 希望者には紙の回答用紙を送付して対応した。高齢者も web 回答に慣れてきている。

●その他、多文化共生に関する全体的なご意見等

・転入時に登録してもらい、一斉に情報発信するような仕組みはできないのか。

→全員にというのは難しい。公式 LINE のような形で登録者に発信するような方法は、今後研究していきたい。

→子ども日本語教室では、転入時に市役所でビラをもらって来る方もいる。そのような情報発信も有効だと感じている。

→入口でネットワークを構築することは重要になる。

・防災についての意見交換等の内容を情報共有していただければ、団体で具体的な助言をしたり、改善したりすることができる。日本人が活動の中心なので、外国人の視点を取り入れて、より良い防災減災につなげられるよう考えていきたい。

→まずは、災害時の行動や防災訓練へ参加するなど、第一歩の動きをしている段階である。

6. その他

○今後の日程について

・次回は1月頃に開催予定。日程については後日調整してお知らせする。